

美術館コレクションにみる栃尾

Art museum collection

「青面金剛」 1996年/和紙にプリント/38cm×27cm(左)

「馬頭観音」 1997年/和紙にプリント/40cm×30cm(右)

鈴木孝枝(1946~)

写真家、鈴木孝枝(すずき・たかえ)は撮影した石仏を独自の技法で、柏崎市(旧刈羽郡)高柳町の門出手漉き和紙に印画しています。石仏の里とも言われる栃尾では、多くの道祖神やお地藏様に出会うことができます。山あいの地で何百年の間、庶民の心を支えてきた石仏はそれぞれ表情が豊かで、道行人をあたたく見守っているようです。



「祭の日」 今井厚(1939~)

1999年制作 油彩・キャンバス/130cm×130cm

栃尾出身の洋画家、今井厚(いまい・あつし)は大名行列など、栃尾の祭りを多く描いています。



【栃尾のまつりいろいろ】

栃尾には一年を通じて個性豊かな祭りや風物詩があり、日々の生活に彩りと活気を与えています。五穀豊穡や無病息災を願うこれらの祭りは先人から大切に受け継がれてきました。また、栃尾の風土や特産品を生かした近年の催し物も、地域に新たなにぎわいを生み出しています。

石仏の里 栃尾

栃尾地域は石仏の里として知られており、その種類は100種類にもおよぶといわれます。道祖神は双体型だけでも100体以上、庚申塔は300体以上が確認されています。また、国内でも珍しいとされる異型の石仏なども存在しています。



ほだれ神社(下来伝)

ひとつの石に仲良くならんだ道祖神の集積地です。また下来伝では毎年3月にほだれ祭りが開かれ、子宝や良縁、家内安全、五穀豊穡などが祈願されます。



南部神社(森上)

猫又権現ともよばれ、蚤を狙うねずみ除けの神様が祀られていると言われています。南部神社の社頭には狛犬とともにこの猫の石仏が建てられています。毎年5月8日には石段の両側に百八灯のろうそくが奉納され、幻想的な雰囲気の中、社祭が催されます。

右は南部神社の社号碑。長岡藩栃尾町検断職を務めた富川大塊(とみかわ・たいかい 1799-1855)が嘉永7年(1854)に揮毫したもの。大塊の作品は当館でも所蔵しています。



巢守神社裸押合大祭(巢守神社/栃堀)

上杉謙信が信仰した毘沙門天を祀った巢守神社の祭りで豊作祈願が始まりといわれています。長さ1m、重さ30kgのろうそくを先頭に裸の男達が本堂になだれ込み、「サンヨ(撒与)サンヨ」「押ッせ、押ッせヤイ」の掛け声で押し合い、福札を奪い合う祭です。

2月第2土曜日 問い合わせ・栃尾観光協会(0258-51-1195)

諏訪神社春季大祭・大名行列

諏訪神社の大名行列には大名の姿はなく、神官、御神輿を中心に、左右大臣、鉄砲・弓などのほか、天狗、神楽など神事と公達、武士、庶民が行列となり、市街を練り歩きます。総勢600余名、長さ300mを超える大名行列が、市街地を巡り、諏訪神社に戻ると神輿、太鼓などの「舞い込み」が始まり、祭りを締めくくります。大祭の前夜には谷内通りにたくさんの露店が並びます。

問い合わせ・栃尾観光協会(0258-51-1195)



- 1月 岩戸舞(葎谷) さいの神(各地)
- 2月 裸押合大祭(栃堀) とちお遊雪まつり(道の駅R290とちお)
- 3月 ほだれ祭(下来伝)
- 4月 栃堀巢守神社春季大祭(栃堀) 諏訪神社春季大祭(表町・諏訪神社)
- 5月 てまりまつり(谷内・常安寺) 百八灯(森上・南部神社) 守門山開き
- 7月 うま市(谷内) 秋葉の火祭り(秋葉神社)
- 8月 石積み(各地) とちお祭(市街地)
- 9月 謙信公祭(秋葉神社)
- 10月 あぶらげまつり(杜々の森・西中野原)
- 11月 来伝天神合格祈願祭(上来伝)
- 12月 寒精進(塩新町)



秋葉の火祭り(秋葉神社)

火伏せ(火防)の神様として全国に信者をもつ秋葉三尺坊(威徳)大権現のお祭りです。三尺坊の遺徳をたたえ、命日にあたる7月24日の夜に行われます。

ほら貝の音とともに祭りが始まり、結界中央の祭壇に灯がともされます。炎が静まる頃、善男善女が無病息災、家内安全を願い合掌して火渡りを行います。

問い合わせ・栃尾観光協会(0258-51-1195)



南部神社の境内にたたく木曜星神の石仏。

